

超高齢社会における総合型地域スポーツクラブを通じたコミュニティ形成について

ーグリーン健康倶楽部を事例としてー

吉田 陽 （ 秋田大学 ）

1. 研究の背景と目的

本研究では高齢者向けに活動を展開するグリーン健康倶楽部（秋田市）を事例として、スポーツによるコミュニティ形成の実態を明らかにし、「孤立死」「孤独死」等の社会問題の解決に向けた総合型クラブの在り方を検討した。

2. 研究の方法

調査対象は令和 5 年 11 月中のクラブ活動に参加した 52 名（回収数は 47 件、回収率は 90.3%）であった。単純集計及びクロス集計を行い、参加者の属性の傾向や地域活動への参加意欲の分析を行った。続いて、各活動別のコミュニティの性格と構成員の特徴に関する参与観察を行った。最後に、クラブ参加者から無作為に 4 名を抽出し、クラブが参加者にとってどのような場となっているか、そこで生まれるコミュニティの特徴を知るための非構造化インタビューを行った。

3. 結果及び考察

（1）属性の近さから生まれる気軽さ

参加者の多くがクラブで新たなつながりができ、クラブ外での交流もあることが明らかとなった。一方で、交流頻度は「月 1～2 回」とあまり多いものではなかった。クラブを通じたコミュニティの良さについて、クラブ加入歴 20 年を超える A さんは「長いこと顔見知りで気兼ねなく話せます。休みが続くとお互いに案じ合える信頼性があります。」と述べていた。また、別の場面では次のようにも話していた。「なんの話するってば、どこの病院がいいとか、あそこがちょっとダメとか近所の人はまたちょっと違ってね。」「目的同じことで集まってるからね。」「(会話の内容を近所に) ばらまかれる心配もないしね、ここでも話せることもあるのよ。」

このような発言から、誰にも縛られず、気軽に話し合える関係を築けることがクラブに所属し続ける参加者が多い要因であり、この点こそが、そこで生まれるコミュニティの良さであることが推察された。また、健康や身体という共通の目的や話題があることがこのようなコミュニティを生み出していると考えられた。

（2）競技に対する高い熱量とその要因

参加者の多くがスポーツに対して高い熱量をもって活動していた。これは、クラブに長期的に参加するうえで重要なこととなる。この熱量を生み出す要因としては、過去のスポーツ経験があげられた。クラブ参加者の多くが過去に部活動や地域スポーツ団体に所属しており、そこで得た「技術が上達したときの幸福感」や「得点したときの喜び」がこの高い熱量を生み出していると考えられた。また、参与観察から競技者の身体的特徴に合わせた種目選択、ルール設定もこれに影響していることが示唆された。

4. 結論

高齢者の身体的特徴に合わせた種目選択とルール設定、そして、種目間の休憩時間を長めに取るにより参加者が会話を十分に楽しめる時間を確保すること。以上の 2 点を重視したスポーツクラブ活動の環境を整えることが、新たなコミュニティの創出につながり、そのことが社会問題の解決と総合型クラブをつなげる上で重要であると指摘した。

5. 主な参考文献

秋田県観光文化スポーツ部スポーツ振興課
（2015）総合型地域スポーツクラブについて。
松宮朝（2022）かかわりの循環ーコミュニティ実践の社会学。晃洋書房。